

皆のためになるものを

誇りを持って

仕事をしています

け・ん・せ・つ
WOMAN義姉と一緒に会社の事務・
経理を一手に引き受ける

社長夫人ですが、義姉と一緒に建設事務や経理を担当する一方、現場に出て作業もするという横山さん。もともとは銀行員だったことから、事務仕事は苦にならないとのこと。ただ、最初は覚えることが多くて大変だったそうです。

「短大を卒業して4年ほど銀行に勤めていました。結婚したのは昭和59年で、当初は夫婦で萩市内に住んでいました。平成4年、義母が体調を崩してしまい、こちらに移ってきたんです」

この頃は義母と義姉が経理をやっておられました。次第に義母の仕事を引き継ぐようになったそうです。

「平成7年頃から事務関係の仕事を手伝うようになりました。銀行にいましたから事務仕事は好きだったんですが、職種が変わると内容も変わりますから、覚えることが多くて大変でした。平成11年に建設業経理の2級を取りました。それから、平成15年には施工管理技士の1級も取ったんですよ」

その頃は公共工事の入札に参加するための経営審査が厳しくなり、技術や実績に加え資格も必要になってきた時期でもありました。どこの建設会社も苦労していた時期だったようです。

「努力されたんですね」と聞くと、「いやあ、私は典型的なO型ですから、ほどほどです。ある程



度を取ってから勉強するのは大変なんですよ（笑）」との答え。

「でもとても難しい建設経理の1級を、義姉は持っているんですよ」と話しておられました。また、CPDS（全国土木施工管理士会連合会の継続学習制度）も継続的に受講しているそうです。

「会社の中では新参者ですから、小間使いのように働いていますよ。この業界の中でもまだまだ若い部類に入りますからね」と朗らかに。

体力を使う仕事が、
結果的にダイエツトに。
横山式プラス思考。

建設業界は男社会で、少し前までは女性の姿が非常に少ない業界でした。苦勞したこと、大変だったことも多かったのではないのでしょうか。

「旧川上村は日本海側でもやや奥まったところなので、冬は雪が

多いんです。毎年のように主人と塩化カリウムを撒いたりしています。けっこう体力が必要なんですよ。それから、最近では毎年のように夏が猛暑ですから、外での仕事は大変ですよ。もちろん大変なのは男性も同じですが、女性は体力的に敵いませんから一段と堪えます。おかげでけっこうダイエツトになっていますけど（笑）」

誰かのために
なるものをつくる。
だからやりがいがある。

逆に、建設業をやってきてよかったこと、想い出に残っていることを聞いてみました。

「一つの現場が終わると、みんなでもバーベキューをやった時期もありましたね。それから、積み立てをしてハワイにも行きました。入管の際に質問攻めに遭ってなかなか出てこない人がいるというハプニングもあったり…。みんな色が黒くて乱暴そうに見えますから警戒されたんでしょうね（笑）」

最近では従業員も少なくなったため大きなイベントはしなくなったそうですが、従業員はみんな仲良くやっているそうです。

「建設業は、ものをつくるのが仕事です。つくったものはみんなが使ってくれます。人のためになるものをつくるというのは、やはりやりがいがある仕事だと思いますね」

仕事も子育ても大切。
でも、両方を忘れる
趣味を持つことも必要です。

最近増えてきた建設業界に進入する若い女性へ、先輩からアドバイスをしてもらいました。

「この業界でも最近ではコンピュータが普及してきましたから、女性ができることが増えてきています。現場でも女性ならではの視点が役に立つことは多いと思うので、若い女性には積極的に参加してほしいですね。ですが、女性は子育てという大きな仕事があります。子育てと仕事の両立は大変ですが、手抜きをするわけにはいきません。そこでアドバイスですが、趣味を持って下さい。仕事も子育ても忘れられる趣味を持つことでストレス解消になります。私はスポーツをやっています。汗をかいて、お風呂でイヤなことと一緒に流してしまえばリフレッシュできます。これからは女性の力で業界を盛り上げていきましょう」

若々しく元気な横山さんのような女性が増えれば、建設業界もいっそう活気づくのではないのでしょうか。

